

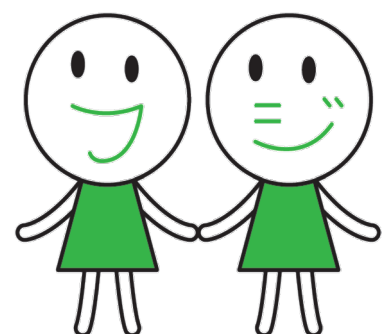
株式会社 富士薬品



春の四重奏

ENVIRONMENTAL REPORT 2023

2023 環境報告書



はじめに

2023年5月、およそ3年にわたり世界中に危機感を与えた新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は日本においても第2類感染症から季節性インフルエンザと同様の第5類感染症に引き下げられました。これに伴い、行動制限や活動自粛も緩和され、個人の判断と責任で感染症に対応することになりました。様々なイベントが再開され、海外からの旅行者も増加の一途ではありますが、私たちの生活においては“マスクの着用”一つをとっても完全に開放された状況ではありません。

一方、地球環境保護を目指したカーボンニュートラルやSDG's（持続可能な開発目標）という単語がSNSをはじめとした各メディアで目に触れない日はありません。昨今の線状降水帯発生による局地的な豪雨災害も、いわゆる地球温暖化と結び付けられ、いつどこで発生しても不思議ではありません。

生産事業本部で働く我々は、2007年に富山工場にてISO14001を取得し、その後富山第二工場へ認証サイトを広げ、組織全体で環境活動に取り組みながら2015年版への認証更新を行い、環境活動を継続して参りました。省資源、省エネ、リサイクルの推進による埋立率の削減といった基本的な活動に加え、事業活動の効率を高めることで安全性の確保、人的コストの削減を実現しております。

2022年度からは環境目標にCO₂排出量削減を追加し、政府目標「2030年度に対2013年度比で46%削減する」をベンチマークに、2022年度は目標値70%以下を設定して活動し、2030年度末の達成に向けて成果をあげております。

また、個人のカイゼン活動も充実してきており、2022年度も2700件を超える活動が報告されました。

今後もスローガン“とどけ元気、つづけ元気”のもと、環境活動の推進に努めてまいります。

環境基本理念

株式会社 富士薬品 生産事業本部では、環境方針に基づいて環境活動を推進しています。

環境管理基準書 別紙 2

文書番号 E1100-02



環境方針

環境理念

健康産業に携わる私たちは、人々の健康を第一に考え、地域社会の皆様とともに健康で快適な暮らしが続けられるよう、自然環境の保護拡大と資源の有効活用を大前提にして、創意と工夫を凝らした企業活動を推進します。

環境方針

1. 生産活動に伴う環境負荷をライフサイクルの視点で掌握し、地球環境に優しい生産事業を推進します。
2. 環境目標を設定し、5Sとカイゼン活動、定期的な振り返り、状況の変化に応じた見直しにより、環境負荷低減を目指す持続可能な活動を推進します。
3. カーボンニュートラルを目指したCO₂排出量削減及び省エネルギー化、並びに廃棄物の削減、環境汚染の未然防止に努めます。
4. 水と緑に恵まれた富山の自然環境及び工場周辺環境との調和を図りながら、工場敷地の緑化保全・推進に努めます。
5. 様々な社内外のステークホルダーに、環境に対する取組みの理解と環境意識の高揚を図ります。又、地域とのコミュニケーションを大切にし、地球環境保護の輪を広めます。
6. この環境方針は生産事業本部で働くすべての人に周知するとともに広く開示します。

2021年11月1日
生産事業本部長

生産事業本部 概要

富山工場

事業内容

医薬品製造業
医薬部外品製造業
健康食品の製造

敷地面積

敷地面積: 28,703 m²
建築面積: 13,965 m²
生産施設: 8,124 m²
緑地面積: 5,306 m²

富山第二工場

事業内容 敷地面積

医療用注射剤製造
敷地面積: 29,538 m²
建築面積: 6,523 m²
生産施設: 3,705 m²
緑地面積: 7,545 m²



1986

富山工場竣工
顆粒剤、カプセル剤、錠剤製造開始

1990

ドリンク、点眼、軟膏製造開始

1992

富山第二工場竣工
医薬品及び治験薬の製造委受託開始

2004

オゾン微生物制御システム共同開発、
特許取得

2005

固形剤の大型生産機導入

2009

大量生産型凍結乾燥バイアルライン導入

2013

新薬製造ライン導入(トピロリック錠生産開始)

2020

新薬製造ライン導入(ユリス錠生産開始)



人々の健康を守る為に
複合型医療品企業を目指して
新たな未来を拓いていきます。

株式会社富士薬品 生産事業本部
環境報告書

2023 CONTENTS

はじめに	1
環境基本理念	2
生産事業本部 概要	3
環境マネジメント	
EMS体制	4
ISO14001認証取得状況	4
環境目標の実績	5・6
環境負荷フロー	7
カイゼン活動への取り組み	8・9
資源・エネルギー	10
循環型社会への取り組み	11・12・13
グリーン購入	14
水系への排出抑制	15
化学物質の管理	16
社会とのコミュニケーション	17
働きやすい環境づくりと人材育成	17・18

編集方針

「株式会社 富士薬品 環境報告書」は、富士薬品 生産事業本部の環境配慮に関する目標や活動内容を報告します。

(株)富士薬品 生産事業本部の環境配慮に関する活動報告を広く皆様にご理解を頂くことを目的に発行しています。報告事項の選定にあたっては、生産事業本部の主な取り組みを中心に、グラフや数値を用いて具体的に説明します。

多くの方にご覧いただけるよう、発行した環境報告書は弊社ホームページに掲載します。

次の環境報告書は2024年9月発行を予定しています。

報告書の対象期間

活動実績については2022年4月から2023年3月を対象期間としています。一部の報告については、この期間外のものもあります。

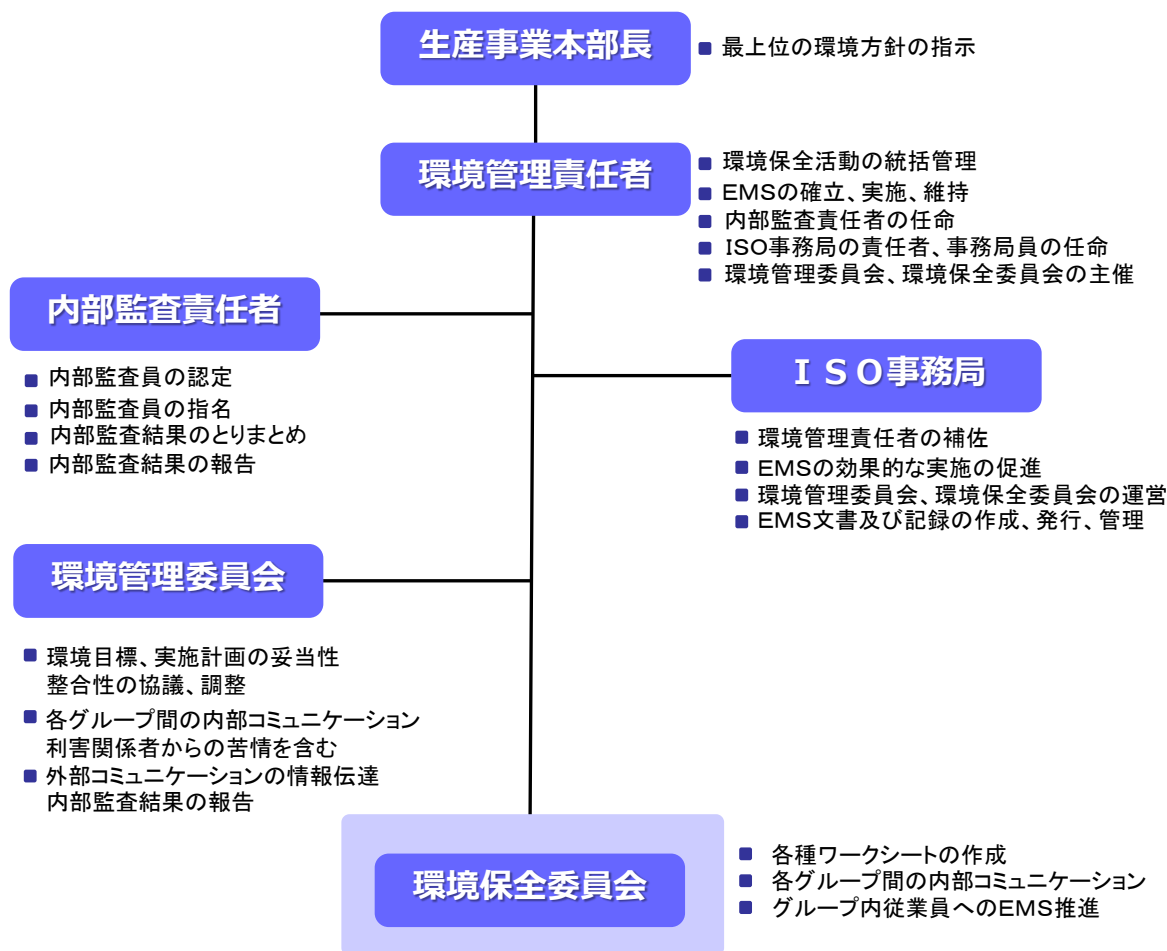
報告書の対象範囲

この報告書は、株式会社 富士薬品 生産事業本部の富山工場、富山第二工場の2工場が対象です。

今回の環境報告書の発行にあたって

ISO14001の活動実績をまとめ、次の1年間の活動の基盤として、また、活動内容を見つめなおし、多くの方にご覧頂きたく、環境報告書を発行しております。

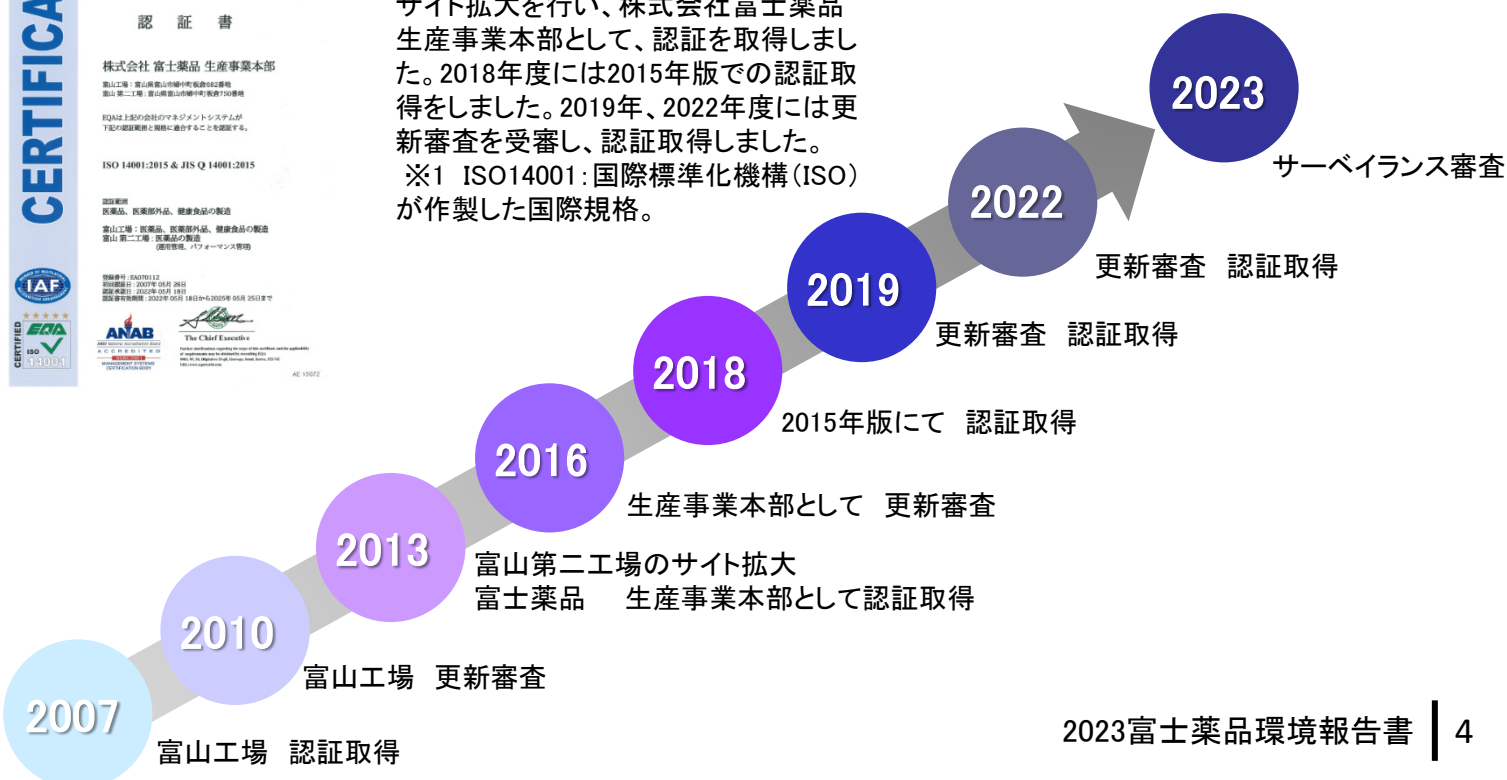
1 EMS体制



2 ISO14001認証取得状況



(株)富士薬品 富山工場は2007年5月認証を取得、2013年5月に富山第二工場へのサイト拡大を行い、株式会社富士薬品 生産事業本部として、認証を取得しました。2018年度には2015年版での認証取得をしました。2019年、2022年度には更新審査を受審し、認証取得しました。
※1 ISO14001:国際標準化機構(ISO)が作製した国際規格。

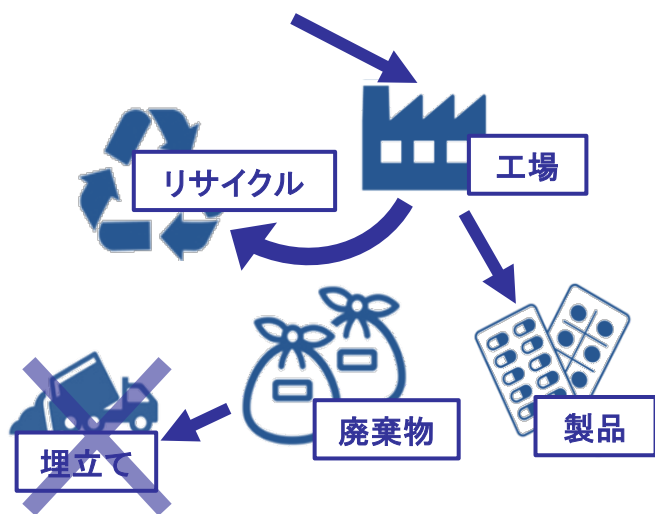


3 環境目標の実績

2022年度実績

2022年度は環境方針に紐づいた環境目標として、環境負荷低減を念頭に廃棄物埋立率の削減とCO2排出量の削減について数値目標を掲げて活動に取り組みました。

1 廃棄物埋立率削減



取組み

工場から排出される廃棄物について、毎年リサイクル切替を行い、年々埋立率が減っていますが、リサイクル廃止や埋立率の高い廃棄物の排出量が増加しています。2022年度は排出量が多く埋立率100%であるガラス容器のバイアル・アンプルと包装資材PTPシートに着目し、リサイクル検討に取り組んできました。バイアル・アンプルは2023年2月からリサイクル切替包装資材PTPシートは2022年12月からリサイクル切替を行いました。

2022年度 目標値

廃棄物埋立率※ 7.0%以下

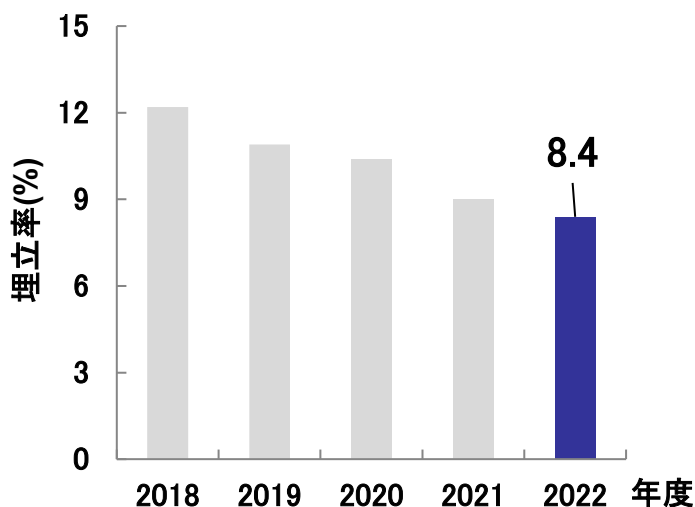
※ 廃棄物埋立率 = 最終処分量/排出量

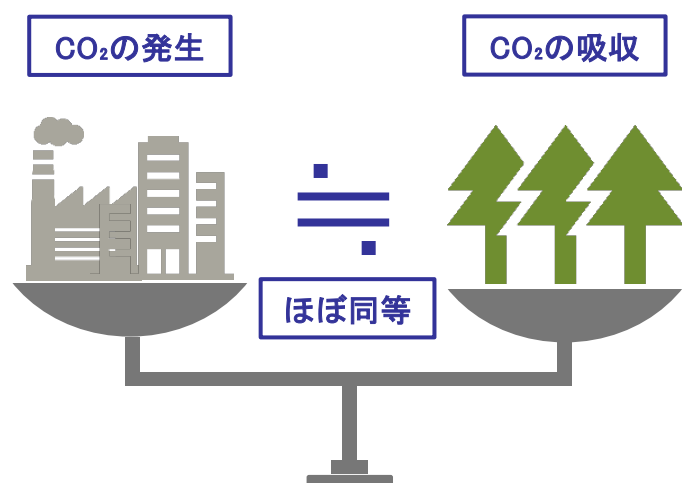
2022年度 実績

廃棄物埋立率 8.4%

廃棄物埋立率について、目標値7.0%に対して実績8.4%と目標未達成となりました。目標未達成の要因としては2023年2月に製品回収により廃棄物が増加したことに加え、2022年10月に予定していたガラス容器のバイアル・アンプルと包装資材PTPシートのリサイクル切替時期が遅れたことが大きな要因であると考えています。2023年度はリサイクル切替が完全移行したため、廃棄物量が大幅に削減できる見通しです。今後は他の廃棄物についても処分方法を変更できないか検討を進めていきます。

廃棄物埋立率





取組み

富山事業所ではカーボンニュートラル実現に向け政府が段階的目標として掲げている2030年度に温室効果ガスを2013年度から46%削減と同様の目標を掲げ活動を行っております。

2022年度は蒸気漏れの解消、空冷チラーの更新、照明のLED化を行ないました。

2022年度 目標値

CO₂排出量
2013年度比70%以下

2022年度 実績

CO₂排出量2013年度比 70%

CO₂排出量削減について、目標の2013年度比70%以下に対し結果は70%となり目標達成となりました。目標達成の要因としては富山工場では蒸気漏れの解消により都市ガスの使用量削減に加え、設備更新をしたことで電気使用量を削減しました。第二工場ではトラブルによるコンプレッサー稼働時間増加が改善されたことで電気使用量を削減しました。2023年度は電力需給先に新電力を加えて2社との契約へ変更、空冷チラー更新によるCO₂排出量削減に向けて活動を行ってまいります。

2023年度目標

取組み項目	目標値
①廃棄物埋立率の削減	埋立率 6.0 %以下
②CO ₂ 排出量削減	富山事業所のCO ₂ 削減 2013年度比 72%以下

4 環境負荷フロー

Input

エネルギー



富山工場

電気 : 6,040 [千kWh]
LPG : 248 [kg]
都市ガス : 558 [千m³]
軽油 : 1.8 [kl]

富山第二工場

電気 : 6,908 [千kWh]
LPG : 66 [kg]
都市ガス : 907 [千m³]

水

富山工場

地下水 : 122,709 [m³]

富山第二工場

地下水 : 211,833 [m³]
上水 : 1,273 [m³]



化学物質

化学物質

アセトニトリル : 1,330 [kg]

エタノール : 23,160 [L]

PRTR対象物質

紙 コピー用紙 ※: 8.9 [t]

※A4用紙 1枚 4.05g

A3用紙 1枚 8.10g で算出



生産事業本部

開発



生産



物流



お客様へ

Output

大気への排出

富山工場

CO₂※ : 4,167 [t]

富山第二工場

CO₂※ : 5,351 [t]



※ 事業活動で排出するCO₂量

水域への排出

富山工場

放流量 : 13,442 [m³]

SS : 0.01 [t]

BOD : 0.05 [t]

富山第二工場

放流量 : 17,930 [m³]

SS : 0.84 [t]

BOD : 1.26 [t]



廃棄物

排出量 : 636,719 [kg]

最終処分量 : 53,481 [kg]

再資源化量 : 396,964 [kg]

有価物 : 0 [kg]



5 カイゼン活動への取り組み

省エネや廃棄物削減など環境負荷低減を目的としたカイゼン活動に取り組んでいます。

1 教育訓練について～教育方法・内容の見直し～(富山第二工場)

昨年度から引き続き、工夫を凝らした教育を通して従業員のものの見方・考え方を養うため、この教育により一人ひとりの感性を磨き職場内において相談しやすい風土づくりに取り組みました。

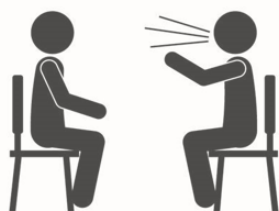
感性やコミュニケーション能力を磨くことで
従業員同士が相談しやすい環境づくり
＝クオリティカルチャーの醸成

■対象者

対象：一般社員・主任（パート・派遣社員含む）
富山第二工場の約7割が対象となる

■全員にとって身近なテーマ選び

自己紹介や伝言ゲームを追加（アイスブレイク）



話しやすい雰囲気づくりのきっかけに

色々な意見を受け入れる雰囲気が作られていて
発言しやすかった

グループの雰囲気が良かった

「手作りゼリー大失敗事件」

※身近なテーマ選び

ホームパーティを開催し、手作りゼリーを振舞いました。

ゼリーを食べた友人は「口の中に違和感があった」というのです。

■逸脱の内容、発生原因

異常・逸脱連絡書（即時処置・応急処置）		管理職
記入口書		
発生年月日		
製口品名		
発生（発生）工程		
内口書		
管理責任者		
①発生状況口書	友人が感じた違和感	
②即時対応口書	違和感の原因	

【逸脱の内容】

- ・ゼリーに髪の毛が混入していた
- ・ゼリーが固かった等

【発生の内容】

- ・調理中、頭を触っていた
- ・レシピを見てなかった等

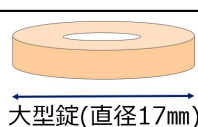
■講師・受講者の時間の負担及び受講者の理解度

講義の部分を録画し、テストとアンケートを電子化を行った。
アンケート結果からも理解度・満足度ともに差がなかった。

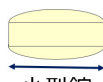
2 大型打錠機による小型サイズ錠の製造(富山工場)

工程内での休日出勤や時間外労働が続いている中で、大型打錠機による小型サイズの錠剤の製造に成功し、今後の増産へ柔軟に対応可能になりました。

■大型打錠機



大型錠(直径17mm)



小型錠
(直径8mm前後)

大型打錠機は＝小型サイズの製造には不向きであるが、機械の能力として製造は可能

大型打錠機で小型サイズの製造に挑戦！

■評価する項目

- ・連続打錠中の錠剤物性【質量/厚み/硬度/直径/外観/摩損度/含有量/溶出性/製剤均一性】など多数の条件を満たす必要がある。

■問題点

- 連続打錠すると打錠圧がバラつき機械が停止
➡剤の供給が不安定になる＝打錠圧がバラつく

■対策



パウアミル

パウアミル(破砕機)にて供給する剤の粒度を均一化する。

➡剤の供給が安定し打錠圧が安定！

品質上問題ない結果が得られた！

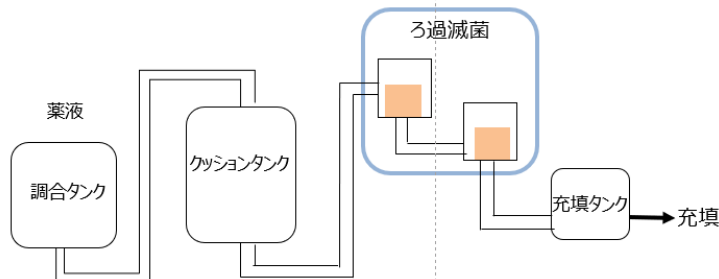
大型打錠機で小型サイズの打錠が可能に！

リードタイム25%短縮
残業時間25%削減

3 高品質及び高効率化への取り組み(富山第二工場)

新型コロナウイルス感染症のワクチン(注射剤)開発の影響でA社製無菌ろ過フィルターの需要が増え、無菌性保証では不可欠なろ過減菌フィルターの安定調達が出来ない状況になりました。そこで無菌ろ過フィルターの有効活用並びに新フィルターを導入しました。

■ろ過減菌フィルターの概要



・注射剤の製造では、この図のようにフィルターで混合液を濾過します。品目によりフィルター本数が異なり、基本的に使い捨てになります。
この点に着目し具体的な対応を考えました。

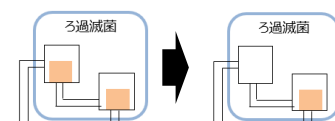
I. フィルター有効性活用

①ろ過減菌フィルターのろ過面積の変更



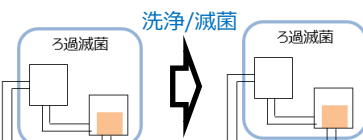
・フィルターの選択肢を広げ、在庫を効率的に使用可能になる

②フィルターの使用本数の変更



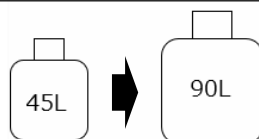
・無菌性保証はフィルター1本で可能
・製造数・実績の多い製剤ではフィルターを1本

③フィルターの連続使用



・連日製造の際に同一フィルターを洗浄・滅菌の上で連続使用する
※充填後に製剤滅菌する品目のみ対象

④製造ロットのスケールアップによる使用フィルターの削減



・スケールアップにより、1フィルターあたりの製造量を増加させることができる

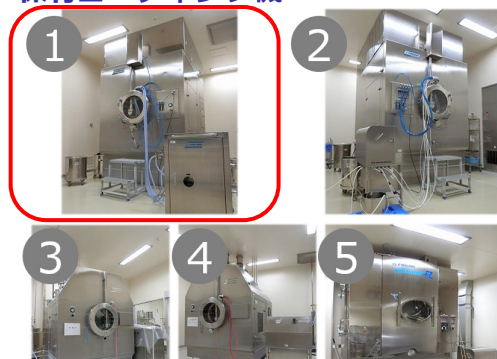
II. 新フィルターの導入

既存の設備で使用可能であり、フィルターの材質等も同じであることで、**B社製**のフィルターを選定

4 錠剤コーティング設備の稼働平準化(富山工場)

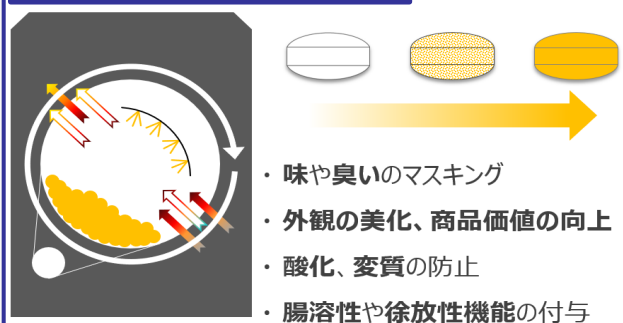
製造品目セイムビタンEX α により錠剤製造設備のコーティング機での稼働増大が見込まれ、同類の既存他設備での製造が可能かについて検討し検証を行い、設備稼働を平準化し新規製造品の安定製造が可能になりました。

■保有コーティング機



既存コーティング機(5台)の中で稼働状況に余力がある①の設備での製造を検討し検証する!

コーティングとは?



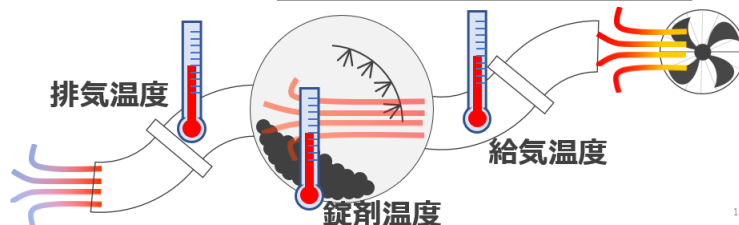
■評価検討する項目

① 工程温度の推移の比較

錠剤温度、吸気温度、排気温度

② 錠剤物性の比較

質量、厚み、直径、硬度、崩壊性、外観



品質上問題ない結果が得られた!

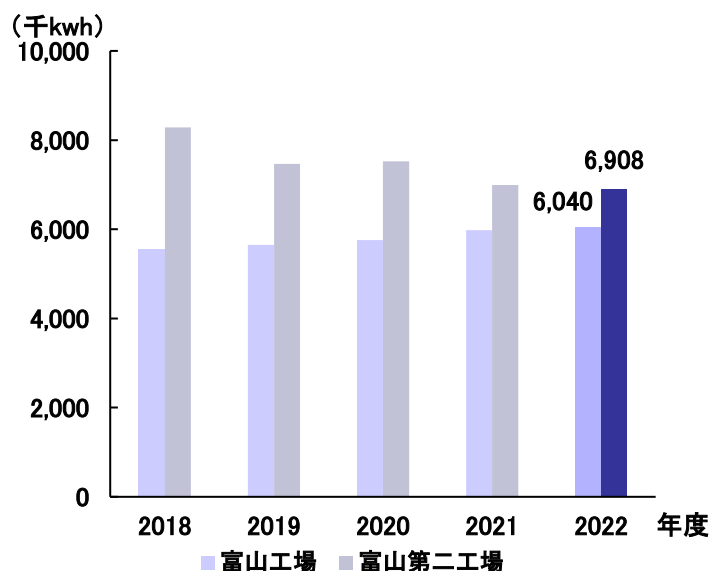
交代勤務の削減
工程時間50%短縮

6 資源・エネルギー

電力使用量

富山工場 / 富山第二工場

6,040 千kWh / 6,908 千kWh

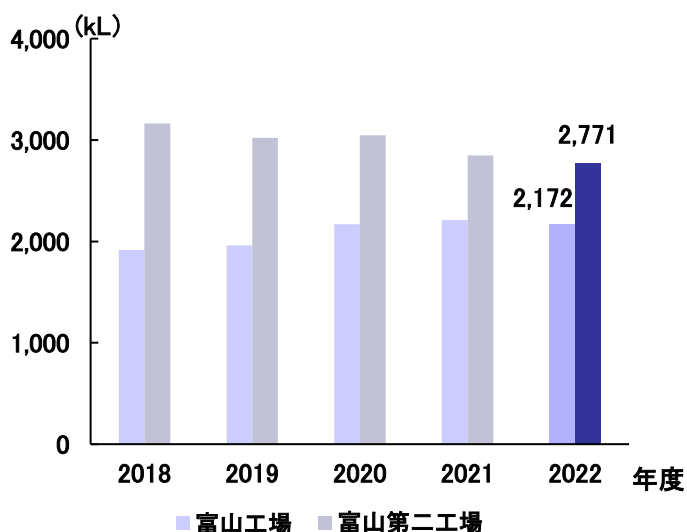


事業活動における電力使用量は、富山工場で6,040千kWh（前年度比：+1.0%）でした。富山第二工場は6,908千kWh（前年度比：-1.2%）でした。両工場共に空冷チラーを高効率機器に更新し省エネを実施しています。

総エネルギー（原油換算）使用量

富山工場 / 富山第二工場

2,172 kL / 2,771 kL

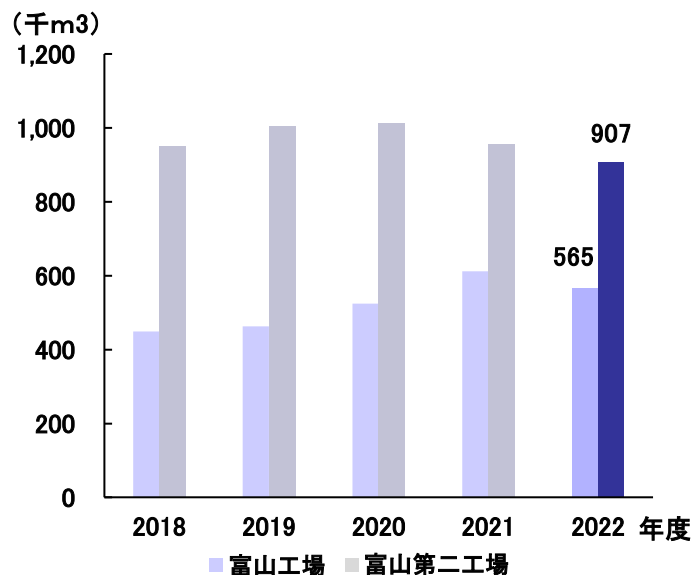


事業活動における総エネルギー（原油換算）使用量は富山工場では2,172kL（前年度比：-1.7%）でした。富山第二工場では2,771kL（前年度比：-2.7%）です。

都市ガス使用量

富山工場 / 富山第二工場

565 千m³ / 907 千m³

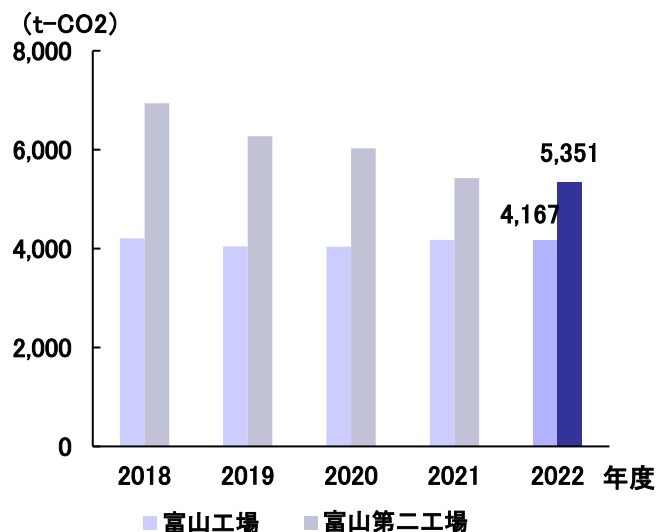


事業活動における都市ガス使用量は富山工場では565千m³（前年度比：-7.7%）でした。富山第二工場では907千m³（前年度比：-5.1%）でした。両工場共にボイラーの台数制御方法見直しや蒸気リーク診断・修繕を行い都市ガス使用量の削減に繋がりました。

CO₂排出量

富山工場 / 富山第二工場

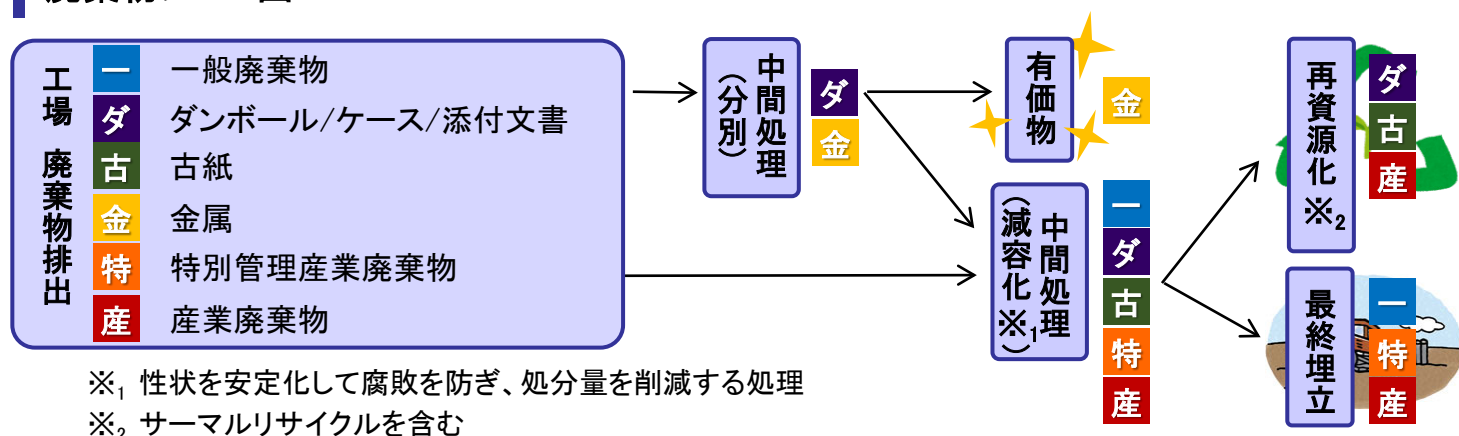
4,167 t-CO₂ / 5,351 t-CO₂



事業活動におけるCO₂排出量は富山工場では4,167t-CO₂（前年度比：-0.1%）でした。富山第二工場では5,351t-CO₂（前年度比：-1.3%）でした。

7 循環型社会への取り組み

廃棄物フロー図



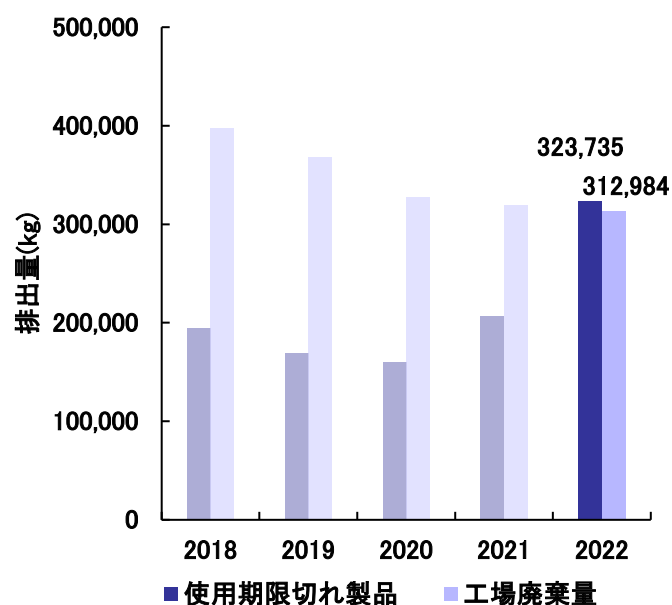
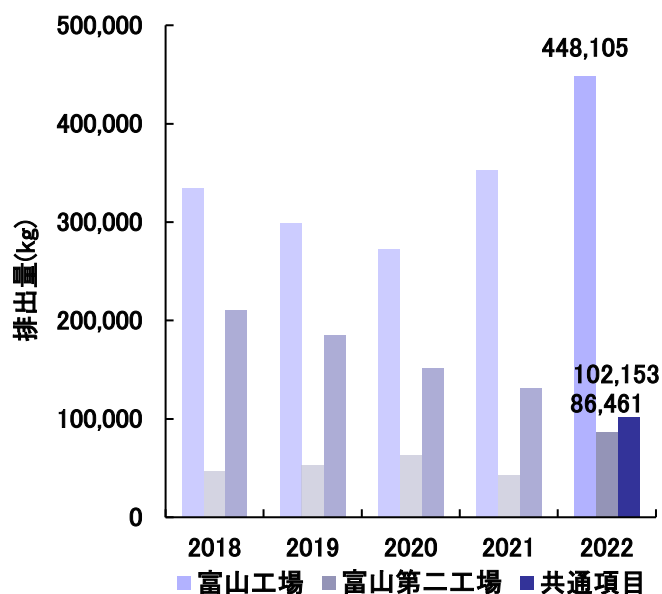
廃棄物の管理

委託業者について、2022年度は電子機器リサイクル業者への訪問を行い、データ流出・漏洩を防ぐセキュリティ管理の確認に加え、ハードディスクなどのデータ記憶媒体の破壊処理に立ち会い、適切に処理が行われていることを確認しました。

廃棄物排出量実績

富山工場/富山第二工場/共通項目※
 448,105 kg/86,461 kg/102,153 kg

使用期限切れ製品/工場廃棄量
 323,735 kg/ 312,984 kg



※共通項目（一般廃棄物、有価物、リサイクル品）

2022年度の排出量の内訳は、富山工場で448,105 kg(前年度比: +27.0%)、富山第二工場で86,461 kg(前年度比: +104.7%)となりました。

営業部の努力により、使用期限切れ製品の排出量が減少傾向にありましたが、2021年度から新型コロナウイルスの影響により増加傾向にあります。前年度と比較し、+56.3%と増加しました。

総排出量と再資源化量(2022年度実績)

	生産事業本部	富山工場	富山第二工場	共通項目
				(一般廃棄物/リサイクル/有価物)
総排出量(kg)	636,719	448,105	57,861	130,753
*1 再資源化量(kg)	396,964(62.3 %)	257,535(57.5 %)	11,536(20.0 %)	127,893(98.0 %)
*2 減容化量(kg)	186,274(29.3 %)	153,057(34.1 %)	33,217(57.4 %)	0(0.0 %)
最終処分量(kg)	53,481(8.4 %)	37,513(8.4 %)	13,108(22.6 %)	2,860(2.0 %)
*1+*2 総再資源化量(kg)	583,238(91.6 %)	410,592(91.6 %)	44,753(77.4 %)	127,893(98.0 %)

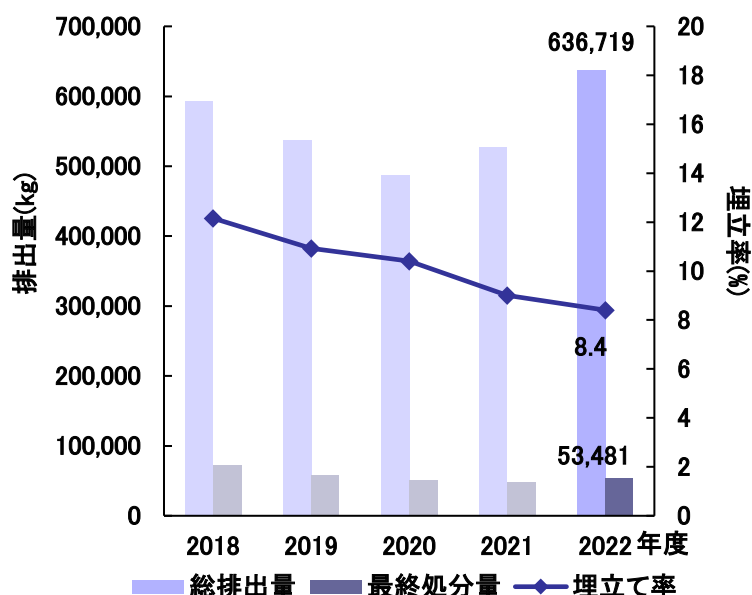
□ダンボール/ケース/添付文書、古紙のリサイクル

古紙回収業者によるリサイクルを行っており、2022年度はダンボール/ケース/添付文書 **ダ** は65,900 kg、古紙 **古** は36,253 kgのリサイクルを実施しました。

総排出量と最終処分量(年度比較)

総排出量/最終処分量/埋立率

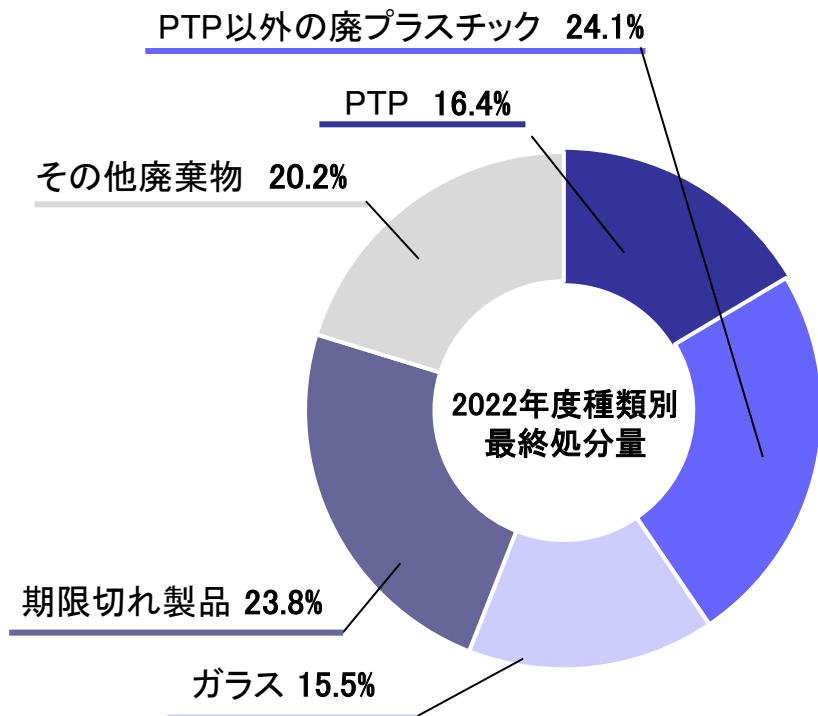
636,719 kg/ 53,481 kg/ 8.4 %



生産事業本部全体の総排出量は、2022年度 636,719 kgとなりました。

埋立となる最終処分量は、中間処理、再資源化されず残った廃棄物を指します。埋立量が多いと、環境負荷の原因になります。そこで本工場では、2013年度より廃棄物埋立率削減を環境目標として取り組んでいます。前年度と比較して埋立率は減少しましたが、埋立率目標値 7.0%以下に対して、8.4%と目標未達成となりました。最終処分量は、前年度と比較して+12.3%となりました。

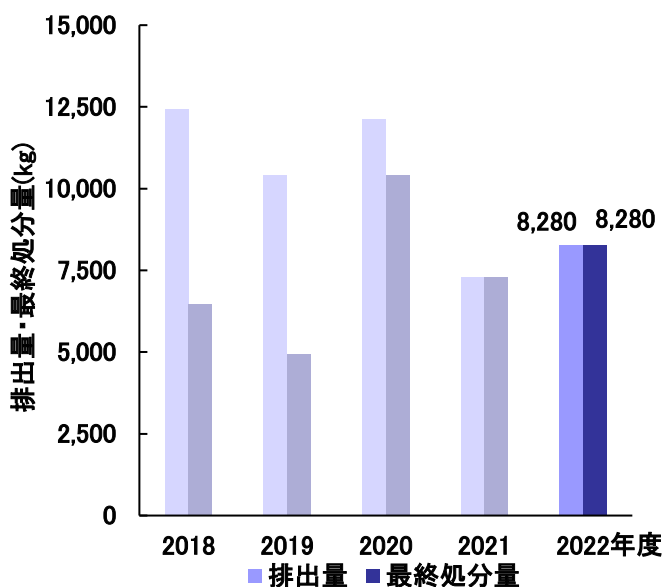
種類別最終処分量比率



2022年度最終処分量の分析を行いました。最終処分量は、包装資材であるPTP、PTP以外の廃プラスチック、ガラス及び期限切れ製品が多く占めていました。

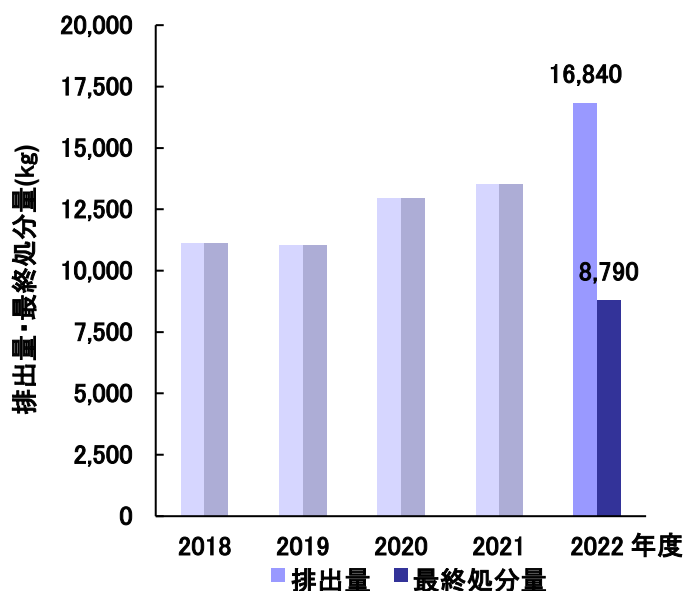
ガラス及びPTP(塩素を含む)の排出量と最終処分量(年度比較)

ガラス排出量/最終処分量
8,280 kg/ 8,280 kg



2018～2019年度は約50 %のガラスが再資源化されていました。しかしながら、2020年7月よりリサイクル廃止となり、排出されるガラスが全て埋立処理となりました。ガラスの排出量は、前年度と比較し+13.6%と増加しました。今年度、バイアル・アンプルについて処分方法を再資源化に変更したため、次年度は効果が見込めます。

PTP(塩素を含む)排出量/最終処分量
16,840 kg/ 8,790 kg

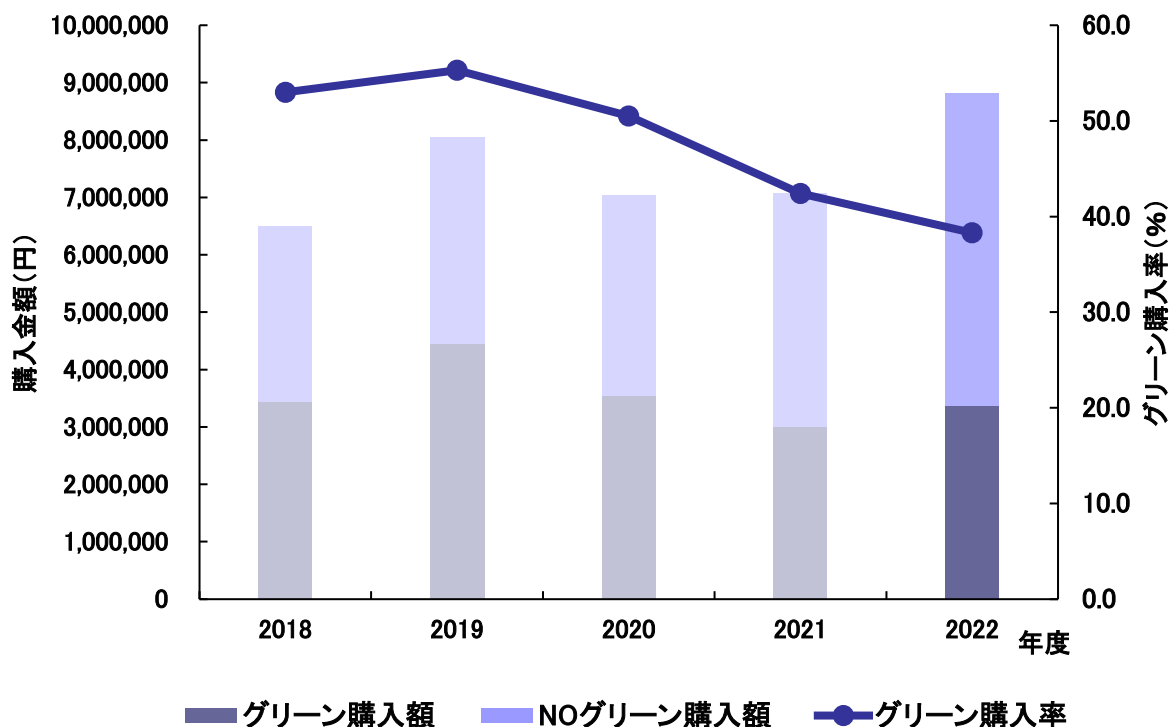


塩素を含むPTPについて、処分方法を再資源化に変更しました。前年度と比較し、排出量は+24.5%と増加、最終処分量は-35.0%と減少しました。今年度は、廃プラスチック類について細かい分析を行い、さらに、全再資源化できるよう、処分方法についての見直しを課題として取り組みます。

8 グリーン購入

グリーン購入率(年間)

グリーン購入額/NOグリーン購入額/グリーン購入率
3,373,869 円/ 5,443,329 円/ 38.3 %



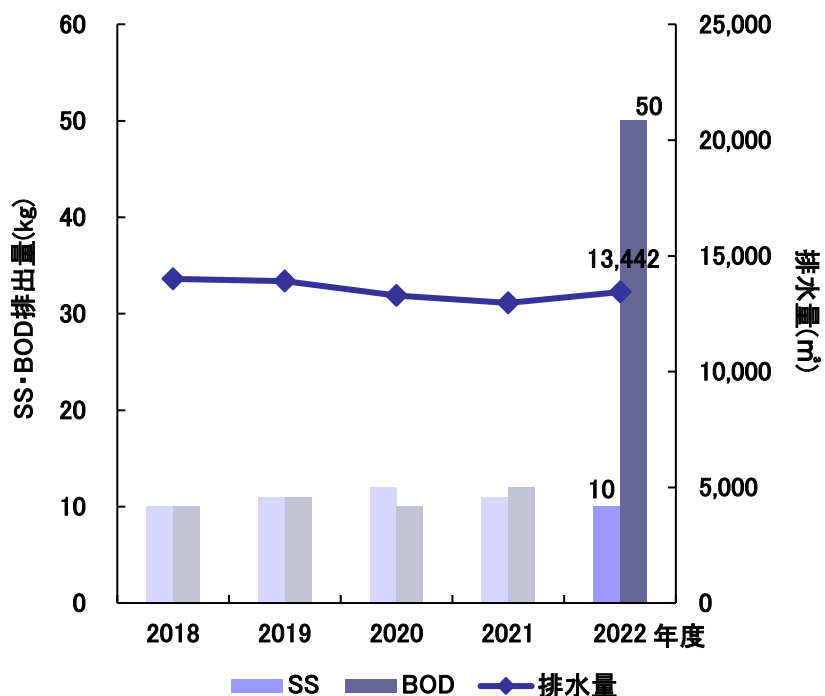
製品やサービスを購入する際に環境を考慮し、必要性を良く考えて環境負荷ができるだけ少ないものの選定を推進しております。2022年度のグリーン購入率は、38.3%(前年度比:-4.1%)となりました。今年度は、各部署で使用できる発注システムを導入したことにより、手軽な発注が可能になりましたが、今後、生産事業本部のポータルサイトに、各部署のグリーン購入率を毎月掲載し、コストとのバランスを取りながらグリーン購入推進を継続してまいります。

9 水系への排出抑制

SS・BOD排出量及び排水量（富山工場）

排水量/SS排出量/BOD排出量

13,442 m³/ 10 kg/ 50 kg

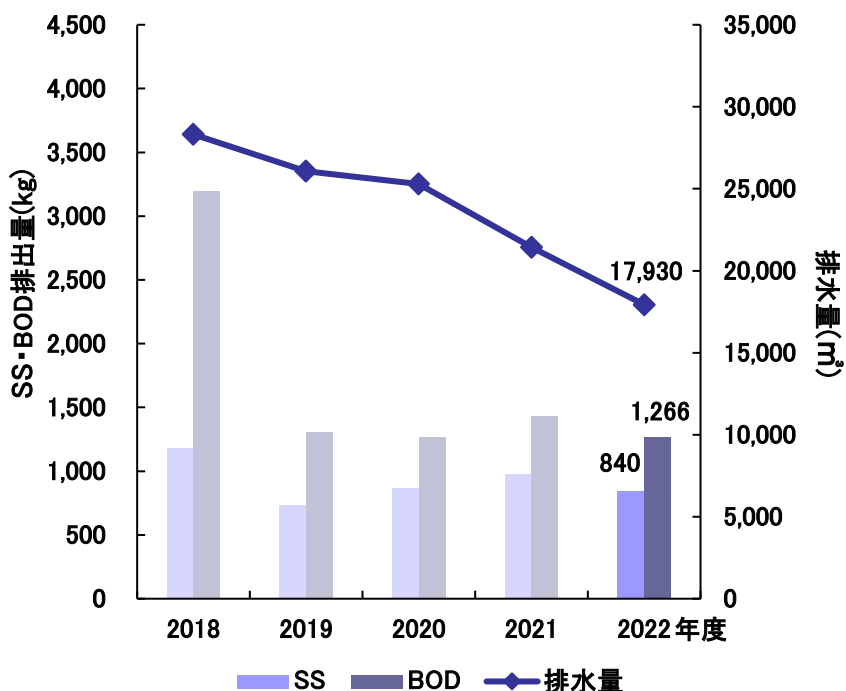


事業活動における年間排水量は13,442m³（前年度比：+3.6%）、SS（浮遊物質）排出量は10kg（前年度比：-9.0%）、BOD（生物学的酸素要求量）排出量は50kg（前年度比：+316.6%）でした。生産数量が増加したことで排水量が増加しています。BOD排出量はオゾン発生装置（BOD抑制装置）のトラブルにより増加しました。富山県公害防止条例の排出基準25mg/l以内で処理していることを確認しております。

SS・BOD排出量及び排水量（富山第二工場）

排水量/SS排出量/BOD排出量

17,930 m³/ 840 kg/ 1,266 kg



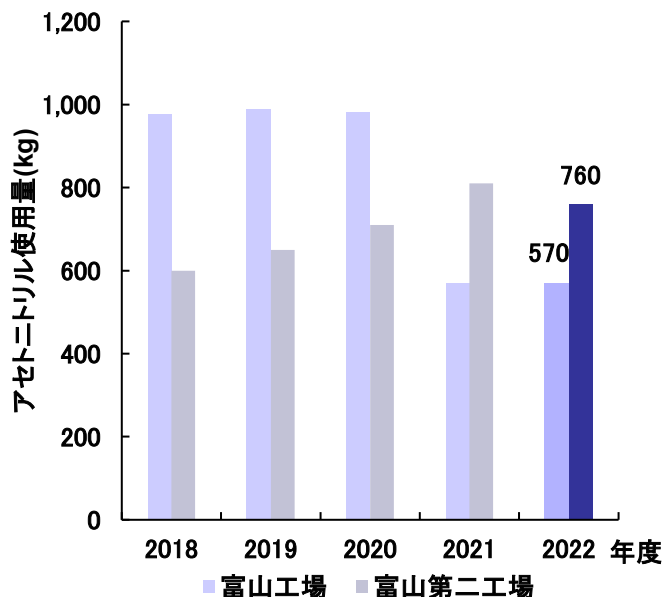
事業活動における年間排水量は17,930m³（前年度比：-16.3%）、SS排出量は840kg（前年度比：-13.6%）、BOD排出量は1,266kg（前年度比：-11.2%）でした。公共下水道への排水がほとんどになります。排水経路にpH調整装置を導入し、pH安定化を図っています。

10 化学物質の管理

化学物質使用量(PRTR法)

アセトニトリル使用量

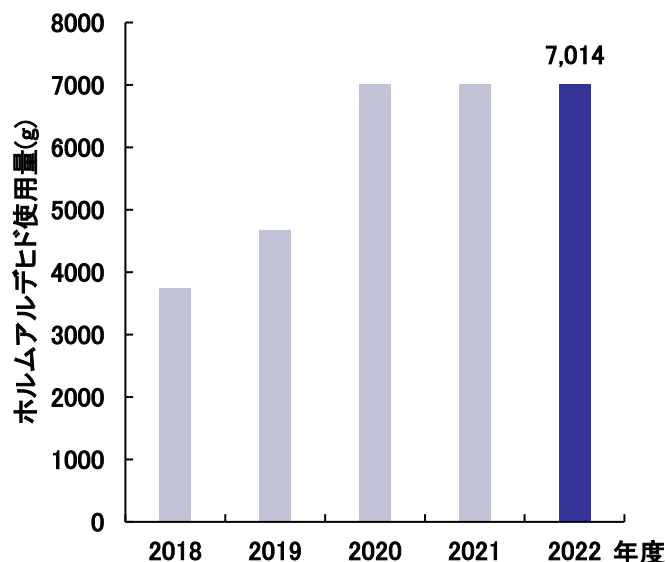
富山工場 / 富山第二工場(570 kg/760 kg)



2022年度のアセトニトリル使用量は、富山工場で570 kg (前年度比: ±0%)、富山第二工場は760kg(前年度比: -6.2%)となりました。富山工場では2021年度以降、品質試験での使用が減ったため減少しています。また、富山第二工場は、試験方法の見直しにより使用量が減少しました。

ホルムアルデヒド使用量

富山第二工場(7,014 g)

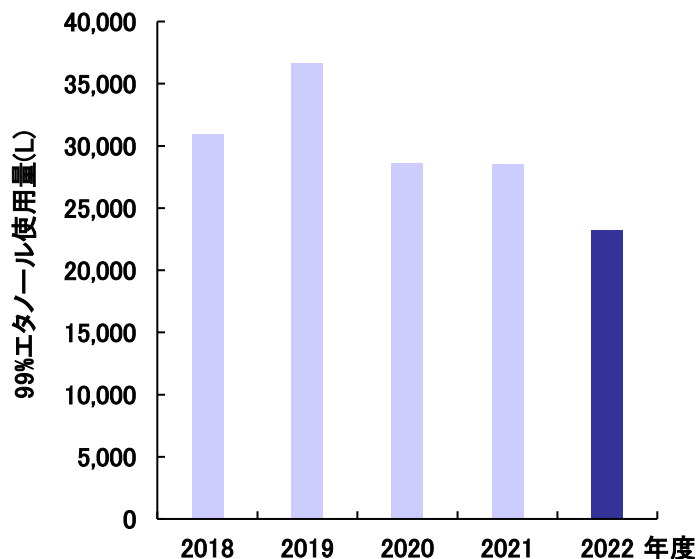


2022年度のホルムアルデヒド使用量は、7,014g (前年度比: ±0%)となりました。富山第二工場では工場の衛生管理のため、B棟にて年2回ホルムアルデヒドを使用して燻蒸しています。2022年度はB棟調製室にて、再度燻蒸を行いました。

アルコール使用量(アルコール事業法)

99 %エタノール使用量

富山工場 (23,160 L)



2022年度の99%エタノール使用量は23,160L(前年度比: -18.9%)となりました。富山工場の製造品目の一つについて、原料のグレード変更に伴い製造条件を2022年10月に変更した結果、1Lotあたりの99%エタノール使用量が約95Lから約30Lに減少しました。

11 社会とのコミュニケーション

近隣住民からの苦情等

2022年度の苦情等は0件でした。今後も苦情が出ないように、注意を払います。

12 働きやすい環境作りと人材育成

SUKUSUKU ～子育て支援の拡大～

日本は男性の育児休業取得率は他国の水準と比べると、低いと言われています。富士薬品グループでは育児休業マニュアルSUKUSUKUを作成し、安心して仕事と育児の両立が叶うようサポート体制を確立しています。初めての育児は、不安な事が多いですが先輩パパ・ママからのアドバイス、一人で悩みを抱えないための相談が容易に行える仕組みづくりの活性化を行いました。



富士ブランド(FB)商品の紹介コーナー設置



経口剤工場である富山工場では、これまで自社製造されている工程や商品のみを紹介していました。今回は富士ブランド(FB)商品の事を社内外問わず多くの方に知ってもらいたいという思いから、「FB商品 紹介コーナー」を新設しました。

パネルでは、「FBの想い」、「OTC医薬品、健康商品の紹介」、「代表的なFB商品紹介」等、計12枚のパネルを設置しました。

工場見学は取引先企業様やお客様、学生様などに見学頂けるのはもちろんですが、従業員も見学可能となっております。

工場見学全体の紹介パネルを刷新し「従来の工場見学をより分かりやすく」をモットーに設置しました。

メンタルヘルスへの取り組み

2022年3月、富士薬品は「健康経営優良法人2022(大規模法人部門)」に3年連続認定されました。その取り組みの一つとしてメンタルヘルスにも注力しています。生産事業本部では年に一度、全従業員を対象として、専門家を招いてメンタルヘルスに関する講演を実施しています。

2022年度は「心理的安全性のあるチームづくり」と題し、ご講和いただきました。

心理的安全性が高い職場では、健全に意見を戦わせ、生産的で良い仕事をすることに注力できます。本講和では、心理的安全性を高めるために、周囲の人に「ありがとう」を伝える事、良かったこと・嬉しかったことを朝礼や会議の前に発表することで、話しやすく相談しやすい雰囲気を作ることが大切だと学びました。

また、アンガーマネジメント(怒りの管理方法)についても講和頂き、怒る側と怒られる側の感情の継続時間のギャップや業務への影響について学びました。

怒る側と怒られる側、双方の事情を知り、お互いに歩み寄ることが大切だと学びました。

今後も皆が安心して働くことが出来る職場の雰囲気作りを心掛けてまいります。



2022

健康経営優良法人

Health and productivity

ホワイト500



この報告書に関するお問い合わせ先

(株)富士薬品 生産事業本部 ISO事務局
〒939-2721 富山県富山市婦中町板倉682番地
TEL: 076-465-3240 FAX: 076-465-3241

報告書発行年月: 2023年8月